

ゴミ拾い通し被災民と交流



筑波学院大 ゴミゼロ運動 530運動

筑波学院大の学生がしてきた住民と、地域
2011年に発生したのゴミ拾いを通して交
東日本大震災以来、福流を深めるために交
島からつくば市に移住している活動。



昨年530運動終了後の集合写真＝つくば市吾妻の筑波学院大

同大の社会参加活動であるオフキャンパスプログラム(OCP)の二環として、「ゴミゼロの日」の5月30日に合わせて年一回のベイスで行っており、今年で6回目を数える。当日は運営学生と参加者が、3グループに分かれて同大周辺を中心に清掃活動を行う。今年6月2日(土)に開催を予定。事前の交流会も計画しており、運営メンバーの学

生がチラシ配りや世帯訪問などを行ってプログラム(OCP)の二環として、「ゴミゼロの日」の5月30日に合わせて年一回のベイスで行っており、今年で6回目を数える。当日は運営学生と参加者が、3グループに分かれて同大周辺を中心に清掃活動を行う。今年6月2日(土)に開催を予定。事前の交流会も計画しており、運営メンバーの学

生がチラシ配りや世帯訪問などを行ってプログラム(OCP)の二環として、「ゴミゼロの日」の5月30日に合わせて年一回のベイスで行っており、今年で6回目を数える。当日は運営学生と参加者が、3グループに分かれて同大周辺を中心に清掃活動を行う。今年6月2日(土)に開催を予定。事前の交流会も計画しており、運営メンバーの学

生がチラシ配りや世帯訪問などを行ってプログラム(OCP)の二環として、「ゴミゼロの日」の5月30日に合わせて年一回のベイスで行っており、今年で6回目を数える。当日は運営学生と参加者が、3グループに分かれて同大周辺を中心に清掃活動を行う。今年6月2日(土)に開催を予定。事前の交流会も計画しており、運営メンバーの学



リーダーの大久保駿さん

「東日本大震災の際、友人もいた。面と向かって話すよりも、何かをしながら話したほうが気軽に話ができるので、ゴミ拾いがよいコミュニケーションの手段になっていると思う。」

さらに大久保さんは活動の意義について「日本では最近さまざまところで災害が起こっているが、別々に起こった災害であってもそれぞれ被害を受けた人同士が集まることはそれぞれの気持ちを繋ぐことができるし、参加した学生は防災意識を共有できる」という。

また、「別の地域から移住してきて、つくばで慣れない生活をしている人たちに一人で苦しまず、いつでも頼れる人がいることを伝えたい。僕たちも誰かに頼ってもらえることがとてもうれしい」と語った。(澤田悠太)